

第47回 公益社団法人
日本口腔インプラント学会・学術大会

ランチョンセミナー7 (LS7)

演 題

骨質を基盤とした新しいインプラントデザインの提案
～ 京セラ FINESIAインプラント～

開催日時

2017年9月24日(日) 12:20~13:20

会 場

仙台国際センター 第2会場(会議棟2階 桜)
〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山無番地
TEL: 022-265-2211

演 者



黒嶋 伸一郎 先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔インプラント学分野
長崎大学病院 口腔・顎・顔面インプラントセンター 講師・病院准教授



Albrektsson教授が提唱したオッセオインテグレーションの獲得条件に「骨の状態」という記載がある。インプラント治療における「骨の状態」といえば、埋入時のドリリング感覚(=骨の硬さ)が重要視され、私達はこれを「骨質」が良い、悪いとして評価している。ところが2000年、米国国立衛生研究所が「骨質」の新規概念を提唱した。新規概念の「骨質」は「骨密度」とは完全に独立していて、「骨強度」=「骨密度」+「骨質」であることが証明され、骨の力学的機能には、新規概念の「骨質」が必要不可欠であることが報告されている。「骨質」は、1)「骨構造」、「骨代謝回転」、「石灰化」、「損傷の蓄積」から構成される概念であり、2)骨構造的には生体アパタイト結晶(BAp)、コラーゲン線維(Col)、骨細胞が構成要素の主体となり、3)骨組織への主応力方向とBAp/Col複合体の優先配向方向が一致し、4)骨細胞が荷重応答の司令塔となっていることなどが明らかにされている。一方、歯科領域では「骨質」=「骨密度」の既成概念を払拭することが困難で、「骨質」の新規概念が歯科研究領域に導入されず、真の「骨質」に対する評価や理解がなされずにインプラント治療が行われている。すなわち、インプラントがいかに骨と結合するかを追い求めてきた従来の研究ではなく、学術体系を変えるような発想の転換が求められている。

我々は、インプラント周囲骨組織の骨質研究に着手し、BAp/Col複合体の優先配向と骨細胞ネットワークに焦点を当てて研究を行ってきた。本ランチョンセミナーでは、新規概念である「骨質」の理解を基礎から深めていただき、京セラより新しく開発されたFINESIA(ファインシア)についても解説する。インプラント歯学における骨質のパラダイムシフトを感取していただければ幸いである。

共 催

公益社団法人 日本口腔インプラント学会 学術大会 / 京セラ株式会社

www.finesia.world

finesia.worldではFINESIAに関する
製品情報やセミナー情報をご覧ください。

